

# 訪問先レポート: イラクで活動する日本のNGO

訪問先団体: ジェン (JEN)

訪問場所	ジェン アンマン事務所
日時	2010年1月11日(月) 16:40~17:40
インタビュー対象者	Cyril Cappai (イラク事業代表); 渡邊千紗(管理会計オフィサー); JEN バグダッド事務所イラク人スタッフ
報告者	石井正子

## 1. 活動内容

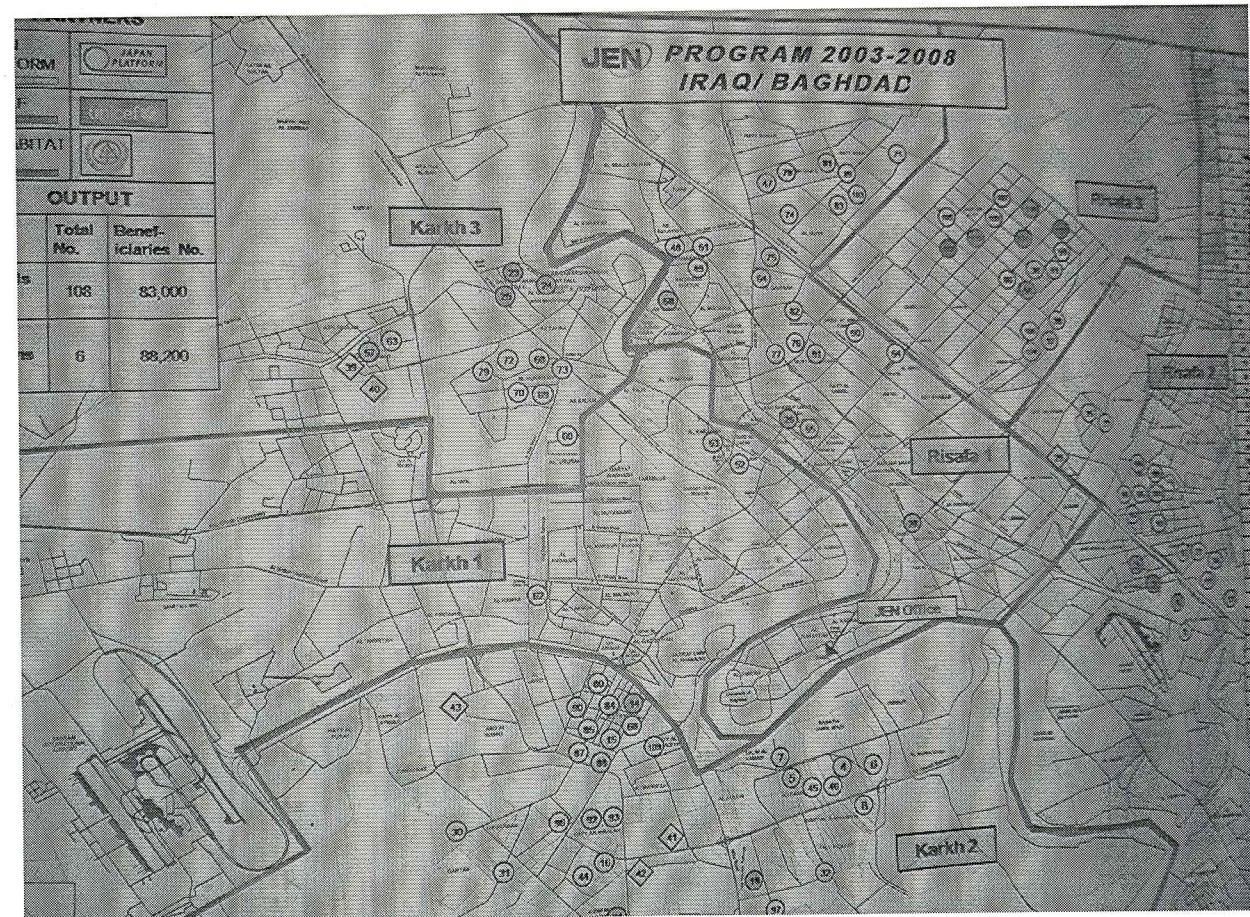
- ・2003年以来、中断することなくバグダッドで支援をしている。
- ・支援内容は次のとおり  
バグダッドの小・中学校 113 校の修復  
水衛生事業: バグダッドの下水整備、ポンプ整備、衛生教育
- ・イラク事業の副代表がイラク人であり、バグダッドの事務所に滞在して支援を実施している。
- ・国際スタッフは治安上の理由でバグダッドに行くことができない。後々はバグダッド事務所のスタッフにハンドオーバーしていく予定である。
- ・スタッフの雇用にかんしては、宗派や政治的背景を

問わない。技能や資格などによって採用する。しかし、採用後は、支援地の政治的状況を考慮し、当該地にアクセスできるスタッフが担当者になることがある。例えば、サドル・シティで事業を行ったときには、同地に入っても政治的に問題のないスタッフが担当者になった。

- ・まずは、貧困の度合い、安全などのJENが設定する基準によって対象地を選ぶが、スンニ派とシーア派が半々になるようにバランスを取っている。

## 2. 支援撤退計画(Exit Plan)

イラクは貧困国ではないので、政府が機能すれば外部からの支援は必要なくなる。現状では、ベージ



クヒューマンニーズを満たす支援をしている。しかし、向こう5年間は外部からの支援が必要になる見通しをもっている。

## 3. その他

- ・政情が不安定だけに、苦勞することも多い。例えば、学校修復は教育省をカウンターパートに実施しているが、突然、教育省の担当者が入れ替わったり、縁故関係で人が役職につくこともある。
- ・2009年には、シリアなどからの帰還民がみられた。ヨルダンからの帰還民は少ない。
- ・イラクの政治は、戦争前と後では、あまり変わっていない。腐敗とサダムはいなくなったが、サダム以前の政治的亀裂は残ったままだ。選挙も政治を大きく変えることはなく、2010年以降も、政治的に不安定な状況はつづくだろう。

## 4. 訪問感想

JENは、危険度が高いバグダッドで活動する数少ない日本のNGOである。JENを通じてバグダッドの支援状況を聞いた。イラクでの支援経験をもつフランス人スタッフの登用、アンマン駐在の国際スタッフとバグダッド駐在のイラク人スタッフとの連携、支援対象者の選定における勢力バランスへの配慮など、セキュリティ対策が的確にとられている様子であり、JENの能力の高さがうかがえた。

支援の展望にかんしては、向こう5年間は支援が必要である、という見解が述べられた一方、状況は不透明であるように思われた。政治的に不安定な状況がつづき、国外に逃れた難民もわずかにしか帰還していない。そのようななかで、NGOはどのような戦略を立てることができるのか。政治的状況の分析と、それにもとづく他機関との連携が一層求められるように思われた。

